

寒高冷地

果樹の品種

なしとぶどう

るのはむずかしい。

日面紅

パットレットと同じ時期に導入され、古くから北海道で栽培されている品種で日の当る面が紅くなるのでこの名で呼ばれている。

樹勢が強く、耐寒性も身不知と同じくらいであるが、結果期に入るのが遅く、欠点として隔年結果性が強い。

果実はパットレットよりもやや大きく、三〇〇g前後で、九月下旬から一〇月上旬にかけて採収し、追熟に三週間位要する。食用期間が二週間程度あり、品質もパットレットよりも良いので、今少し伸ばして良い品種である。

耐寒性の面では身不知と同じであるが、札幌以北の地方では、極端に結実が悪くなるので、良い生産を上げるにはやはり札幌以南の地方で栽培する品種である。

相内

別名「北海早生」とも呼ばれており、余市地方において実生で発見され、古くから身不知の受粉品種として栽培されてきた。札幌地方における熟期は一〇月上旬で、貯蔵期間は一ヵ月内外あり、果実は長円で三五〇g前後になる。食用適期に黄白色になり、肉質は緻密であるがやや甘味に乏しく品質は中位である。

従来は身不知の受粉品種として貴重な品種であったが、新品種の抬頭と共に次第に減少している。しかし札幌以北の地方で身不知の受粉品種に適当なものない所には必要な品種である。

初日

北海道農業試験場で「身不知」と「長十郎」を交配して作り出した品種で、昭和三年に優良品種に決定した。

早生種で札幌地方では九月中旬に熟し、果実は一五〇〜一九〇g内外で小型であるが豊産性である。果皮は緑褐色で甘味が多く肉質は中位で、早生種としては品質が良く食味は「長十郎」に似ている。食用期間は採収後十日間位である。

早生で耐寒性が強いので、中部以北の夏季温度が不足で適品種の無かった、根釧、宗谷の一部の地方は元より、札幌以北の地方に適する。

外観があまりよくなく貯蔵性に乏しいので、自家用栽培に向いており、大栽培向きの品種ではない。

甘玉

初日と同じく北海道農業試験場で、「身不知」に「長十郎」を交配して作出した品種で同じ年に優良品種に決められた。

中生種で、札幌地方で九月下旬〜一〇月上旬にかけて熟し、果実は円形で二三〇〜二七〇g内外で、淡緑黄色を呈し、肉質はやや粗く、果心が割合大きい。多汁で甘味が極めて多く、同時期に出廻る「相内」よりも勝れている。

樹勢が強く栽培の仕易い品種であるが、無袋にすると果皮が割れる欠点をもっているため、自家用栽培に向いている。

耐寒性の点から見て、胆振地方以北の最低気温が零下二十七、八度以下に下らない地方に適する。



北 洋



初 日

北 洋

北海道産業試験場育成の品種で、両親は「長十郎」と「二十世紀」である。初日、甘玉と同時に優良品種となった。

晩生種で札幌地方では一〇月下旬に熟し、翌年二月まで貯蔵できる。果実は二七〇(三〇)以内で淡褐色を呈している。果形はやや不整な扁円であるが、肉質は密で、甘味が極めて多い。

札幌地方では「長十郎」よりも豊産で、黒星病に強く作り易い品種である。耐寒性は「長十郎」と同じ位で、晩生種であるから、空知以南、胆振以北の中部地方に好適している。しかし道南地方においても、黒星病の被害がなく、粗放栽培に耐えるので一部の地方にも好適している。

北 星

最も新しい品種で、北海道農業試験場で「二十世紀」に「身不知」を交配し、今年三月発表した中生種である。

札幌地方では九月下旬に熟し、二五〇以内の緑黄色の紡垂形を呈して外観は極めて良い、肉質はやや粗であるが果心が小さく、品質は良好である。食用期間は採取後三〜四週間くらいで、この時期のなしとしては良い方である。

樹勢は中位、耐寒性は「長十郎」程度であり、現在長十郎が栽培されている地域に適する。晩生種の出廻る前の品種として、品質、外観共に良く、市場性も高いと思われるので、中生種の代表種として伸ばして良い品種である。

北 都

「北星」同様北海道農業試験場の育成品種であり、両親は「身不知」と「二十世紀」で、今年三月優良品種として発表された。

中生種で札幌地方では九月下旬に熟する。果実は二三〇以内で、不整の短紡垂形を呈し白黄緑色である。肉質は緻密で、果心が小さく、多汁で甘味が極めて多く上品な香気があり、品質は最上である。

樹勢が強く栽培が容易であるが、収量は中位、耐寒性は「身不知」と同程度で、現在「身不知」の栽培されている地域に栽培が可能と思われる。しかし収量があまり多くないのと、果実が不整であるため大栽培向きでない。

外観に似ず食味は優れ、品質は最上であるから北部寒冷地の自家用に適している。

新 世 紀

岡山県農業試験場で「二十世紀」と「長十郎」を交配して作出した品種で、果実は円形に近く、大きさは二八〇以内になり、果皮は黄白色になる。

肉質は「甘玉」より密であるが、甘味がやや少ない。

札幌地方では一〇月一〇日頃熟し、一一月下旬まで貯蔵できる。

樹勢は中位で「黒星病」も「長十郎」より若干多い傾向がある。

栽培地域も中部以南の地方に向いている。

其の外品質の良いものに、ブランドワイン(中生の西洋なし)、極晩生種のウインターネリス(西洋なし)なども中央部以南の地方で小栽培するにもしるい品種である。

ある。

デラウェア

北米で偶然実生で発見され、わが国には明治一八年に山梨県の一篤農家によって導入された品種で、栽培品種の四〇%を占める重要品種である。

本種は花振りが少なく、粒着は密であるが、房と果実が小形であるため収量はやや少なく、北海道では一〇%当たり一、〇〇〇キログラム前後である。

一結果枝に三〜四房着生するので、結果過多に注意する必要がある。

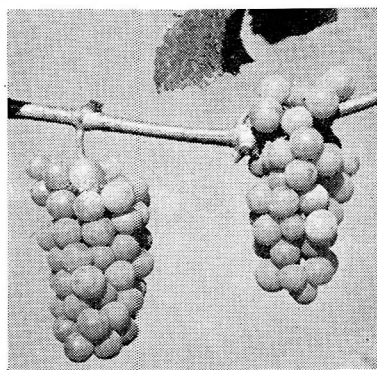
適地は壤土か砂壤土であるが、やや重い土でもよくできる。また砂丘地のような土地においても、鮮明な着色(鮮紅色)をし、乾燥に対しては比較的強い。

北海道における熟期は、九月上中旬であるが、ジベレリン処理を行なうと、無核果になり熟期も早まり、八月中に出荷されるものがある。果皮は、強くなく輸送中にさけ易く、また日持ちもそれ程長くないので、取扱いは慎重に行なう。

経済栽培を行なうには、中部地方以南の地域である。

キャンベルアーリー

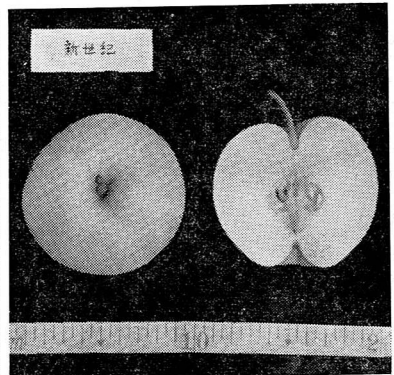
この品種は北米、オハイオのキャンベル氏が作出したもので、ヨーロッパ種とアメリカ種の雑種である。わが国には川上氏に



ポートランド



ナイアガラ



新 世 紀

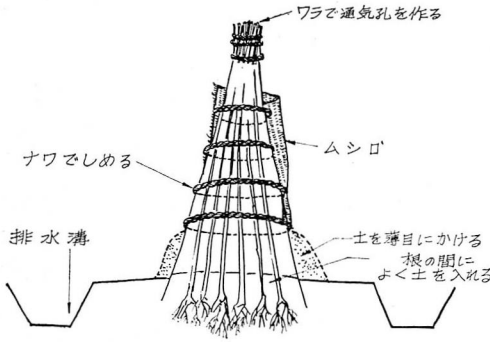
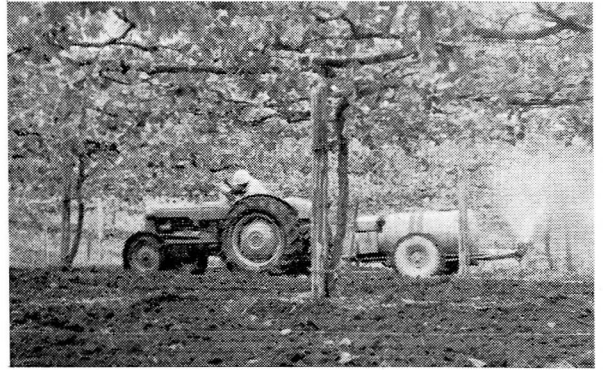


図1 排水の良い場所を選び これを行なう前と、早春にも必ず野ソの駆除を行なうことが必要である。



ブドウ園のスピードスプレーヤーによる薬剤散布

よって明治三〇年に導入された。

わが国においては、デラウェアに次いで第二位の栽培面積であるが、岡山県以西にとくに多い。これと対称的に北の北海道においても主要品種で、栽培面積の約四四％を占めている。

デラウェアに比べ水分を必要とする量が多く、重い土で水持ちのよい土に適する。枝の拡張性は新梢の伸びが強く強い割合に大きくならず、結実が始まると発育が弱まり、比較的矮性になる。

収量は多い方に属し、房も果粒も大きく、北海道では一〇ヘクタリ一、五〇〇キログラム前後であるが、管理によってはまだ収量を上げることができる。

一房平均二五〇〜三〇〇グラム前後になり、耐病性は強い方である。しかし黒痘病には「デラウェア」よりも弱い。

ナイヤガラ

本種はアメリカでコンコードとキャサディを交配して作り出され、わが国には川上氏によって明治二六年に導入された。主要栽培地は、北海道、東北各地、長野県に多い。

樹勢は強く、新梢は太く長く伸び、成熟すると褐色になる。葉は大きく厚く表面は暗緑色で平滑である。

果皮はうすい黄緑色になるが、日光の当たる面は黄色が強くなる。房の形は円筒形〜円錐形で、一房二〇〇〜三〇〇以内になる。北海道における熟期は、早い年で九月下旬、平年か遅目の年で一〇月上旬であるが、年によっては成熟期に強い霜に見舞れる時が

あり、未熟のままで終ることがある。そこで一結果枝に二〜三房着くが、北海道では必ず二房に制限し、結果過多による未熟を防ぐ必要がある。耐病性は黒痘病にやや弱い傾向があり、とくに幼果期に雨が多いと被害が多い。

経済的に栽培を行なうにはやはり、札幌以南の地方である。

ポートランド

本種は、ニューヨーク州農業試験場において、黒色のチャンピオンと、赤色のルーアの交配から作出された白色アメリカ種で、両親の品質よりはるかに良く、東部アメリカにおいて、ナイヤガラに勝る早熟黄色種として可成り広まっている。早熟でデラウェアより約一〇日位早く、粒はナイヤガラより少し大きく、果房はやや小さい。着粒は若干粗の方である。一結果枝に三〜四房着生するので、二房位に摘房する。甘味が強く酸味が少ない早熟種であるから、従来ナイヤガラの甘味の少なかった地方に好適している品種である。しかし大栽培には向いていない。

フレドニヤ

ポートランドと同じ両親を交配して、ニューヨーク農試で作出した品種で、親のチャンピオンに似て、美しい鮮やかな赤いジュニス採れるので、生食用はもとより、ジュニス、ピンク酒用として大衆用に広く栽培されている。

極早生で北海道では九月中旬に熟し、果粒は大きく、キャンベルアーリーと同じ位である。房も本州では三〇〇〜三〇〇に揃うとい

われているが、北海道ではまだ幼木のためか房が若干小形である。また本種の特徴として幼木期には良く枝が伸び、節間が遠くなり良い房が着かないが、四〜五年を過ぎると、木が落着き房も良くなる。栽培地域は従来キャンベルアーリーの栽培されている地方である。

バッファロー

北海道中央農試で北米より導入し、今年三月優良品種に決定された黒色種で、熟期、栽培法もキャンベルアーリーと殆んど同様の割合作りやすい品種である。

糖度が十八〜二十一度位になり、従来キャンベルアーリーを栽培している地域に好適している。

以上、なしとぶどうの品種について概要を述べたが、苗を秋購入した場合の越冬法について述べてみたい。

苗木の購入は春よりも秋の方が良苗を手できるが、果樹の品種によって耐凍性が異なり、年によって初冬や、早春の気温の変化によって非常に左右されやすい。そこで一般的に安全な越冬法として行なわれているのが、苗を八〇〜一〇〇程度を束ね、真直ぐに立てる法が行なわれている。

(北海道農業専門技術員)